

2. 研究の詳細

プロジェクト名	スピリチュアリストの聖職者とその降霊術に関する調査研究		
プロジェクト期間	平成 26 年度		
申請代表者 (所属講座等)	タッド・ジェイ・レオナルド 国際共生教育講座	共同研究者 (所属講座等)	
1	<p>(1) 本研究の目的は、聖職と霊媒能力における心霊術聖職者の職務と経験、聖職者としての霊媒能力上の経験、宗教的背景、メッセージを伝えるため霊と深いつながりをするのに使用する道具に関しての一次資料を収集することである。</p> <p>(2) 本研究は、詳細なアンケート、被験者面接、一次資料（歴史的書類と教育関連資料）の収集からなる。加えて、多くの二次資料も用いる。</p> <p>(3) 使用する研究方法は量的質的の両方法からなる。被験者に実施したアンケートの結果から得られた「質」的面の研究結果は既に 2 本の論文にまとめて公表した。</p> <p>(4) 本研究では、注意深くまとめたアンケートを 100 人の可能性のある被験者に送り、61 人から回答があり、内 54 人を対象とした (n=54)。また、歴史的なキャンプチェスターフィールドにあるインディアナ心霊術者協会の歴史的な文書館で臨地研究を実施し、資料と関連情報を収集した。さらに、アンケートの回答から得たデータと情報の理解促進のために被験者数人にも面談した。</p> <p>(5) アンケート結果から全体として宗教における興味深い傾向が得られ、宗教は一般的に急速に高齢化し、被験者は私が命名する「宗教を渡り歩く者」であるという結論に至った。その理由は、一般的に彼らはまず複数の異なる宗教的伝統に従い、その後心霊術を宗教として追求し、最終的に（しばしば人生の後半で）心霊術聖職者になり聖職を追求しているからである。質的面では、職務・聖職・霊媒能力における被験者の感情と信念に関して私的で詳細な様子が分かった。被験者は率直で正直に回答し、自分の宗教体験を詳細に表した。</p> <p>(6) 本研究で期待される結果は多種多様である。本研究のデータを使用し論文を 2 本公表した。また、テキサスの国際会議で遠隔地発表したが、この発表形式は、研究費残額の不足により、学会会場まで行けないため、学会組織委員会からデジタル形式で発表するよう要請があったためである。発表内容は宗教研究者には関心が高く、この分野の研究者は世界的に少ないため、私の研究は引用され、今後複数の場所から研究発表の招待があると期待する。この分野の私の研究は、他の研究者に、現代心霊術、聖職者、霊媒能力の現状を具体的に理解する機会を提供できる。</p> <p>(7) 本研究を包括的な研究（現在、計画・準備中）を開始する前に実施することは適当である。本研究により、疑問のいくつかを精緻化でき、研究の他の側面を深く考えることができたが、本研究がなかったらこのような面に到達することはできなかった。私は、回答者と被験者の基盤を拡大し、アンケートで尋ねたいいくつかの質問を明確化し、年配の心霊術霊媒に面談し、彼らが生涯で経験した霊媒能力の人間の側面の理解を高めるための「口述証言」を実施し、本研究の完成度を上げる計画である。この計画は 1 年間のサバティカルの間中に国外で行う予定である。</p> <p>(8) 本研究結果は福岡大学紀要に発表し、包括的で詳細な研究結果は宗教科学研究協会(ASSR)学会会報 2015 で発表した。そして、本論文は 2015 年 3 月 7 日にテキサス州ダラスの年次国際会議で遠隔地発表された。</p>		

本研究計画は、心霊術霊媒を調査した10年以上前の研究にその発端がある。しかし、現在の研究は、霊媒でもある授職心霊術聖職者のみに焦点を当てている。公証霊媒と授職心霊術聖職者・霊媒を区別するのは、宗教全体が現在どのように機能しているかに関するデータを収集するためと、聖職者がどのようにして初めて宗教に導かれたのかを深く知るためである。彼らは生涯にわたる心霊術者なのか、主流の宗教から改宗したのか、聖職者になるために学習したいと思ったのはいつか、霊媒能力を使用する職務でどのような道具を使うのか、などの質問が詳細なアンケートで量的質的に問われた。

本研究の目的は、聖職と霊媒能力における心霊術聖職者の職務と経験、聖職者としての霊媒能力上の経験、宗教的背景、メッセージを伝えるため霊と深いつながりをするのに使用する道具に関しての一次資料を収集することである。

本研究は、詳細なアンケート、被験者面接、一次資料（歴史的書類と教育関連資料）の収集からなる。加えて、多くの二次資料も用いる。

使用する研究方法は量的質的の両方法からなる。被験者に実施したアンケートの結果から得られた「質」的面的の研究結果は既に2本の論文にまとめて公表した。

本研究では、注意深くまとめたアンケートを100人の可能性のある被験者に送り、61人から回答があり、内54人を対象とした(n=54)。また、歴史的なキャンプチェスターフィールドにあるインディアナ心霊術者協会の歴史的な文書館で臨地研究を実施し、資料と関連情報を収集した。さらに、アンケートの回答から得たデータと情報の理解促進のために被験者数人にも面談した。

アンケート結果から全体として宗教における興味深い傾向が得られ、宗教は一般的に急速に高齢化し、被験者は私が命名する「宗教を渡り歩く者」であるという結論に至った。その理由は、一般的に彼らはまず複数の異なる宗教的伝統に従い、その後心霊術を宗教として追求し、最終的に（しばしば人生の後半で）心霊術聖職者になり聖職を追求しているからである。質的面では、職務・聖職・霊媒能力における被験者の感情と信念に関して私的で詳細な様子が分かった。被験者は率直で正直に回答し、自分の宗教体験を詳細に表した。

本研究で期待される結果は多種多様である。本研究のデータを使用し論文を2本公表した。また、テキサスの国際会議で遠隔地発表したが、この発表形式は、研究費残額の不足により、学会会場まで行けないため、学会組織委員会からデジタル形式で発表するよう要請があったためである。発表内容は宗教研究者には関心が高く、この分野の研究者は世界的に少ないため、私の研究は引用され、今後複数の場所から研究発表の招待があると期待する。この分野の私の研究は、他の研究者に、現代心霊術、聖職者、霊媒能力の現状を具体的に理解する機会を提供できる。

本研究を包括的な研究（現在、計画・準備中）を開始する前に実施することは適当である。本研究により、疑問のいくつかを精緻化でき、研究の他の側面を深く考えることができたが、本研究がなかったらこのような面に到達することはできなかった。私は、回答者と被験者の基盤を拡大し、アンケートで尋ねたいいくつかの質問を明確化し、年配の心霊術霊媒に面談し、彼らが生涯で経験した霊媒能力の人的側面の理解を高めるための「口述証言」を実施し、本研究の完成度を上げる計画である。この計画は1年間のサバティカルの間中に国外で行う予定である。

本研究結果は福岡大学紀要に発表し、包括的で詳細な研究結果は宗教科学研究協会(ASSR)学会会報2015で発表した。そして、本論文は2015年3月7日にテキサス州ダラスの年次国際会議で遠隔地発表された。

○本報告書は、本学ホームページを通じて学内外に公開いたします。

○本経費により作成された成果物や資料等については、必ず全て添付願います。